サザエの資源管理に取り組んで

内浦漁業協同組合サザエ刺網グループ
千　場　正　幸

1．地域と漁業の概要

私達の住む内浦町は、能登半島の北東部富山湾に面した、いわゆる内浦海岸地域の北部にあり、人口は約９千人弱の町です。（図１）

町の産業は総生産額の３割弱が１次産業で占められ、漁業はそのうちの約８割を占め、重要な基幹産業となっています。また、恋路海岸、九十九湾など全国的に有名な観光地も多い町です。

私達の所属する内浦漁業協同組合は、正組合員88名、准組合員201名で構成され、漁業種類としては、マダイ・イカ・サバ・タチウオ・メバル等を対象とした釣り・延縄漁業や、サヨリ船曳網、刺網の漁船漁業とサザエ・モズク・ナマコ等の磯根資源を対象にした採介藻漁業に大きく分けられ、組合員はこのうちの少ないもので２種類、多いもので５種類の漁業の組み合わせ操業を行なっています。主な魚介類、漁業種類別生産額の構成は図２、図３のとおりです。

延縄を中心とした漁船漁業の漁場は内浦海域沿岸のほか、禄剛崎沿岸海域、嫁礁など比較的広範囲に利用しています。

また、サザエを対象とした刺網やモズク等の採藻は地先の漁場で行っています。

2．研究グループの組織と運営

サザエの刺網を行っている漁業者の出荷の一元化を図るために、昭和50に「サザエ刺網グループ」を設立しました。現在は約100人が参加しており、その年間の操業パターンは概ね、年間を通じてサザエを対象とするもの、延縄と船曳網を組み合わせたもの、延縄と刺網を組み合わせたものの３種類に大別されます。（図４）

サザエの管理に関する様々な計画については、サザエ刺網グループがこれまでの慣習や年輩者の意見を参考に案をつくり、漁協内の漁業管理委員会及び理事会で承認を受けた後に決定事項を次回の総会で周知徹底するようにしています。また、急を要する時は、役員が地域組合員に連絡しています。

3．活動の動機

私達の地先資源の最重要種はサザエであり、漁獲量も資源管理に取り組み始める昭和63年以前の頃には増加傾向にありました。（図５、図６）

しかし、サザエ漁獲量の約８割を漁獲する刺網漁業者には、既に漁獲減に対する危機感があり、また、操業実態も漁場に漁具が放置されており、漁場管理及び漁業秩序の面からも問題が多いこと、さらには、サザエの価格は月変動が激しく、大きな価格差が生じ、サ

ザエが地先資源の重要種であるという意識が低下してきたことなどから、昭和63年から資源管理に取り組むことにしました。

4．活動の状況と効果

資源管理に取り組む以前の操業期間は４月１日から８月31日まででしたが、漁場の過当競争を防ぐため、１ヶ月短縮して５月１日から８月31日までとすることが、漁協内の漁業管理委員会で承認を受け理事会で決定されました。しかし、価格が高い５月の連休頃に操業できないのは経営的に苦しいと言う意見も多く、再度刺網グループ内で検討しましたがまとまらず、最終的に総会で半月短縮して４月15日から８月31日までとし、投網時間は４月15日の午前５時投網としました。

また、網の目合いと反数についても同時に検討し、目合いについては２年間の猶予期間を設けて、２寸から２寸５分以上とし、反数は１はい５反以内で総反数40反までに制限しました。

操業の秩序を守るため、１はい毎に船名または氏名を記入した同一旗を掲げるとともに、揚網時には一度網を揚げ、その後新たに投網するように取り決めましたが、同一旗についてはなかなか徹底できないのが現状です。

資源の減少を防ぐために、松波防波堤前後50mは禁漁区とし、殻幅45ミリ以下のサザエは採捕禁止とし、具体的には缶コーヒーを通過するサイズは放流するという方法をとって現場での作業を簡素化しました。

さらに平成８年度より、毎年サザエ稚貝２万個を保育場に放流して、資源の増大を図っています。（図７）

5．波及効果

このような取り組みによって、以前には多発していた私達の間での情報交換不足や限られた漁場にむやみに網を入れることによる網切断などのトラブルが目に見えて減り、私達みんなの資源管理に対する意識が高まりました。

また、サザエの漁獲量及び漁獲金額は県全体と同じ傾向を示し、減少傾向にはありますが、平均単価を見ると図８に示すように、昭和63年以降県全体の平均単価を上回り、小型のサザエを保護してきた効果と考えられました。

6．今後の課題

さきほど、資源管理に対する漁業者の意識が高まったと言いましたが、一部に決まりを守らない人がいるのも事実で、やはり、一はい毎の標識に船名を明記することを徹底して進めていかなければならないと痛感しています。

また、私達自身、現状ではサザエを取りすぎていると思っており、さらに禁漁区を増やしたり、刺網の反数を減らす必要があると考えています。

こういったことについて、現在サザエ刺網グループ内での検討を進めておりますが、当面は「地区毎の禁漁区の輪番制導入」から取りかかりたいと考えています。

一方、組合では平成２年度より郵パックによるサザエの販売を行っており、おみやげ品として人気を得、平成11年度も５月から７月に447箱（２kg入り）を発送して一定の成果

を上げています。今後、販売経路を拡大することや出荷調整によるサザエの価格の安定化を図るなど、これまでの漁獲する方法や資源保護の観点からの管理に加えて、価格対策の側面も考慮した資源管理の意識がさらに高揚することを期待しています。

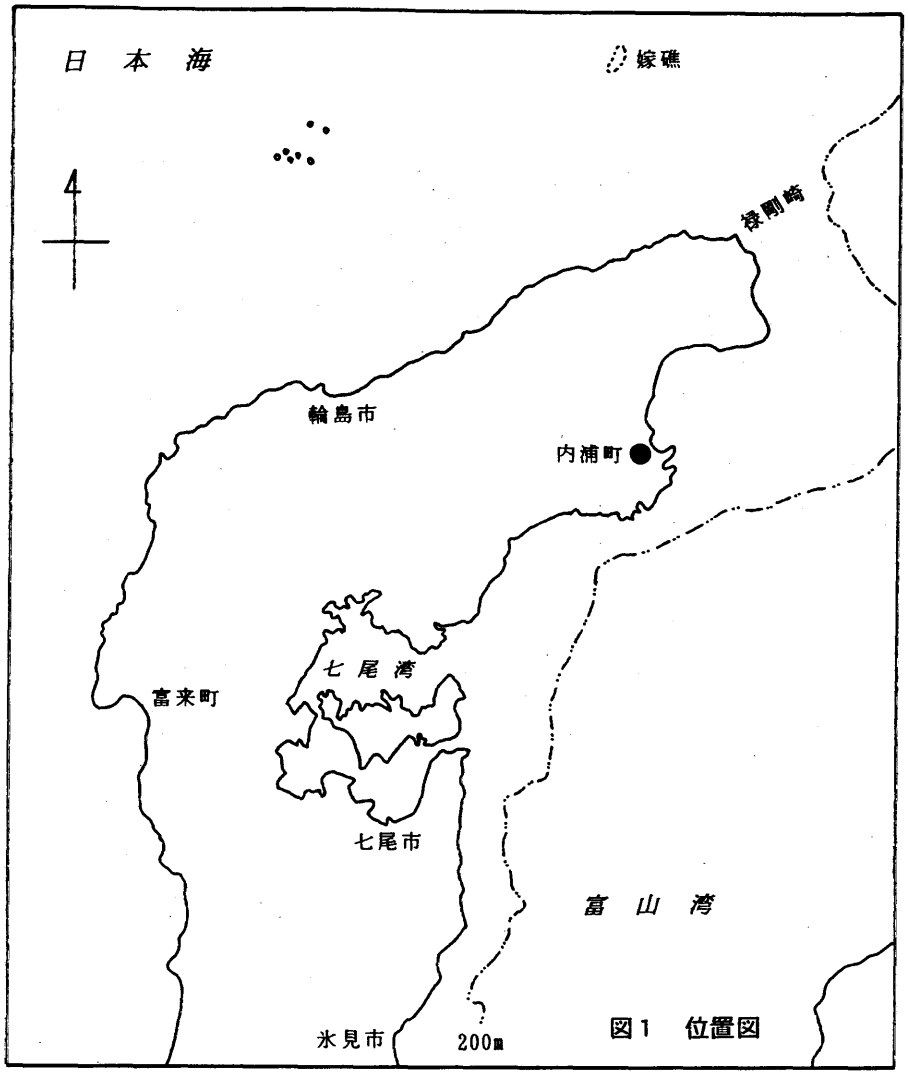


図1　位置図

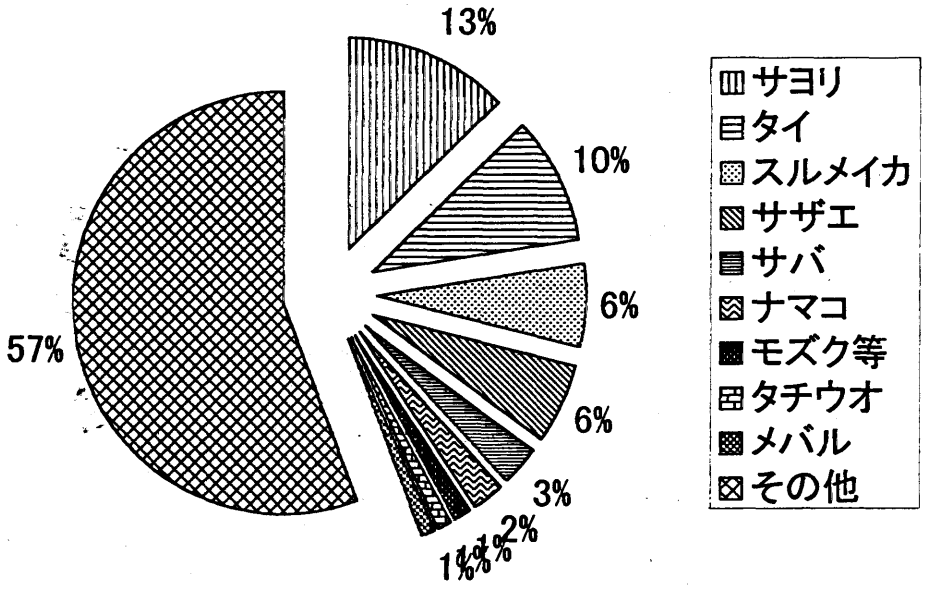


図2　平成10年度主要魚種漁獲金額構成比

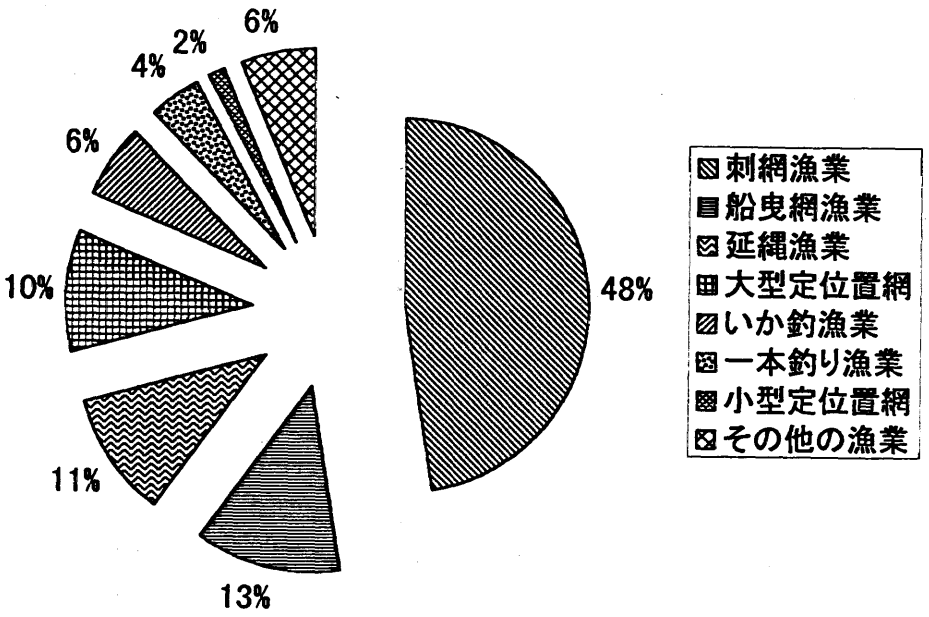
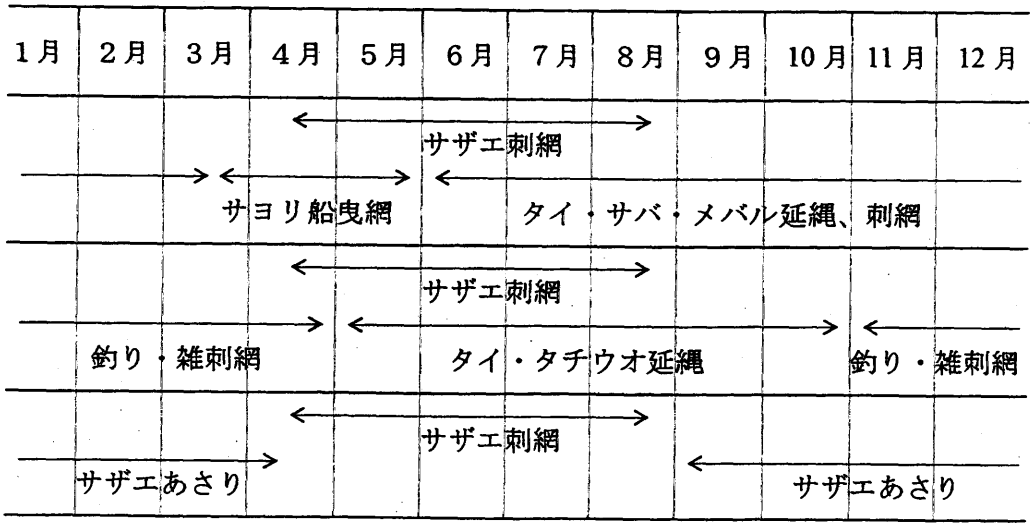


図3　平成10年度漁業種類別漁獲金額構成比

図4　サザエ刺網漁業経営体の年間操業パターン



※　上段：３トン以上５トン未満動力漁船
中段：１トン以上３トン未満動力漁船
下段：１トン未満動力漁船

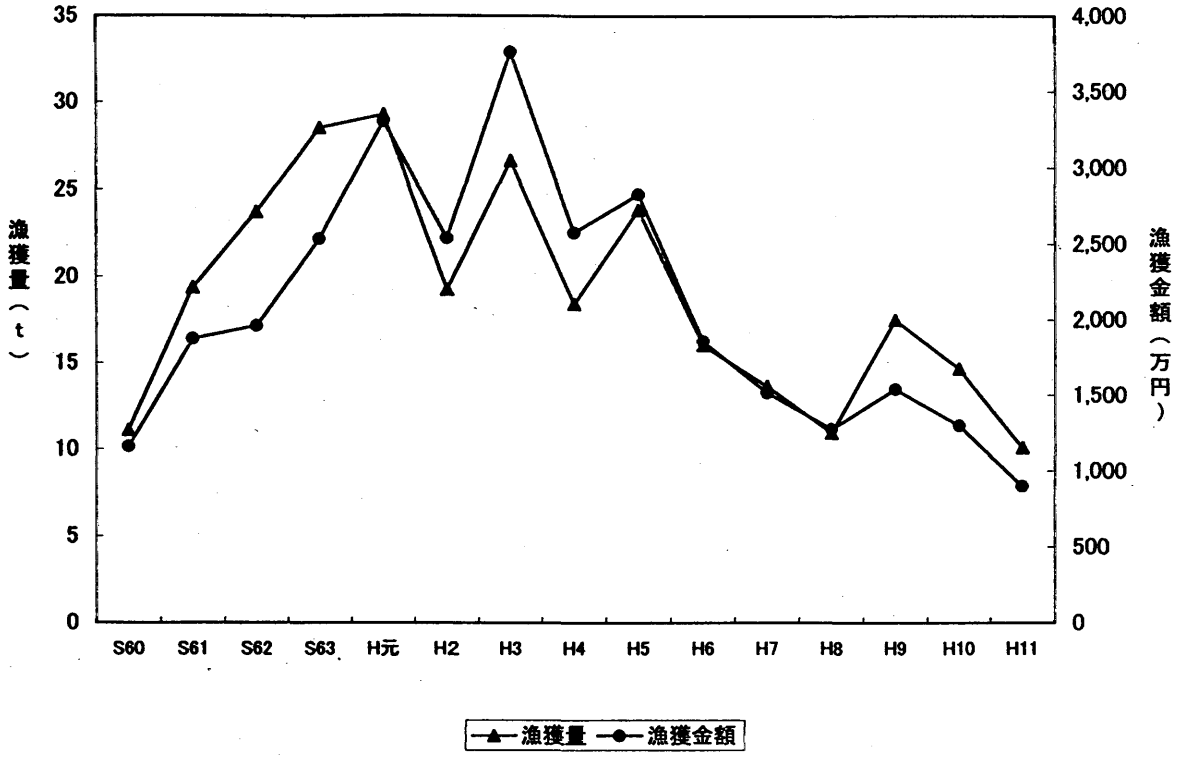


図5 サザエ漁獲量と漁獲金額の変化

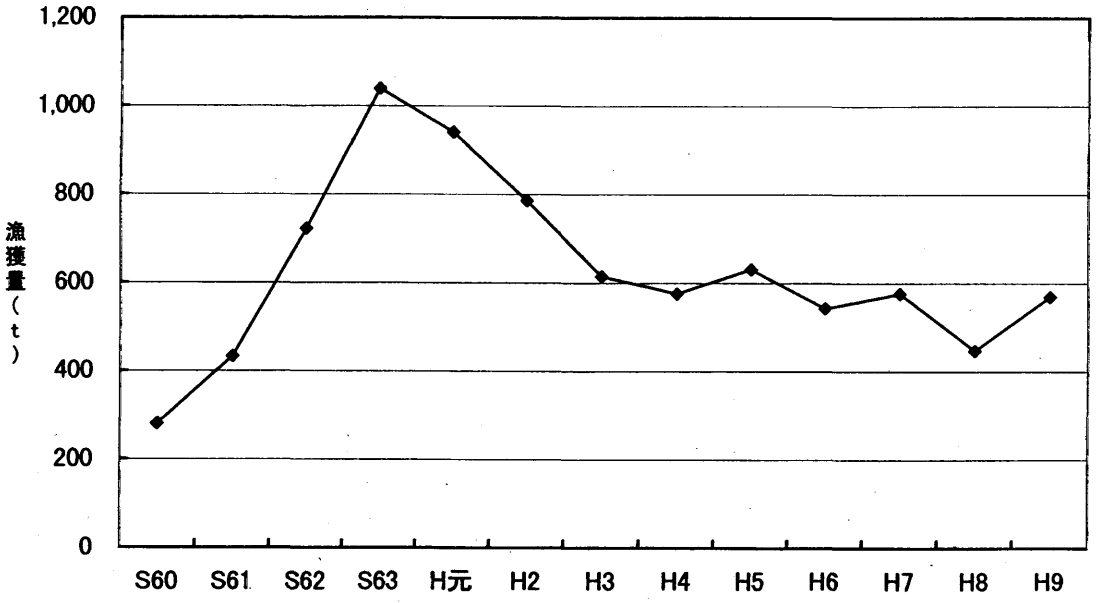


図6 石川県のサザエ漁獲量の変化

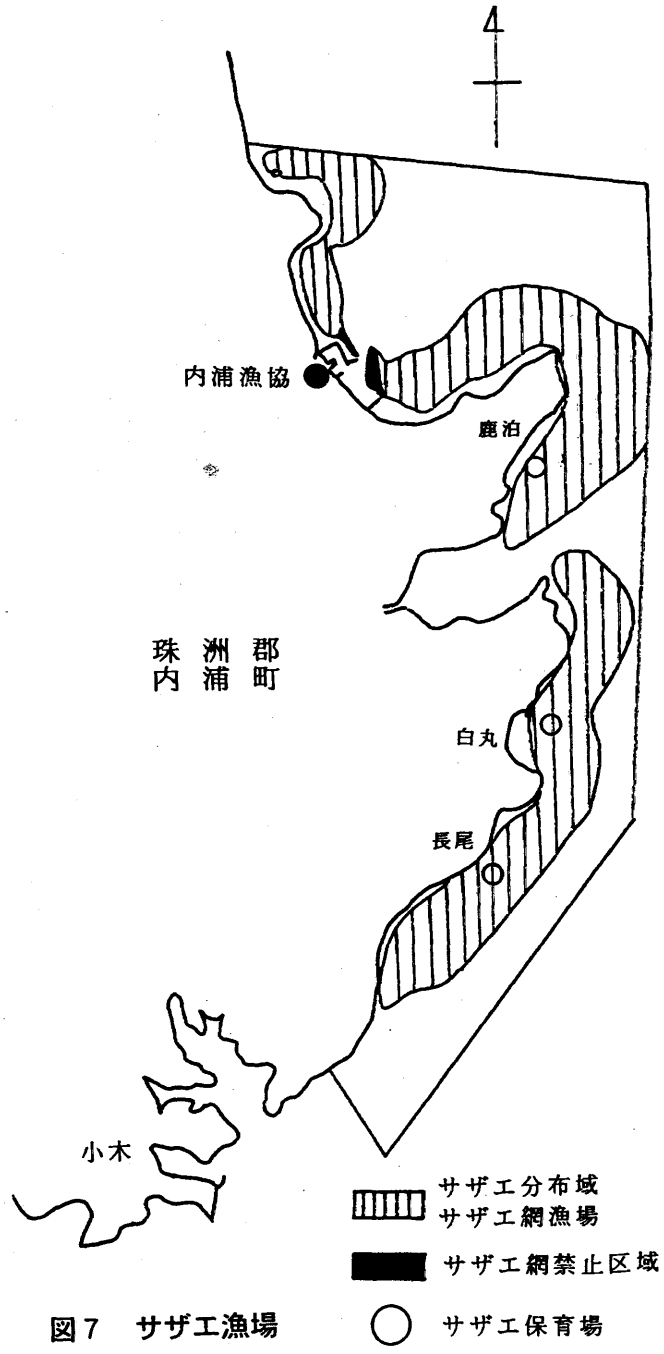


図7　サザエ漁場

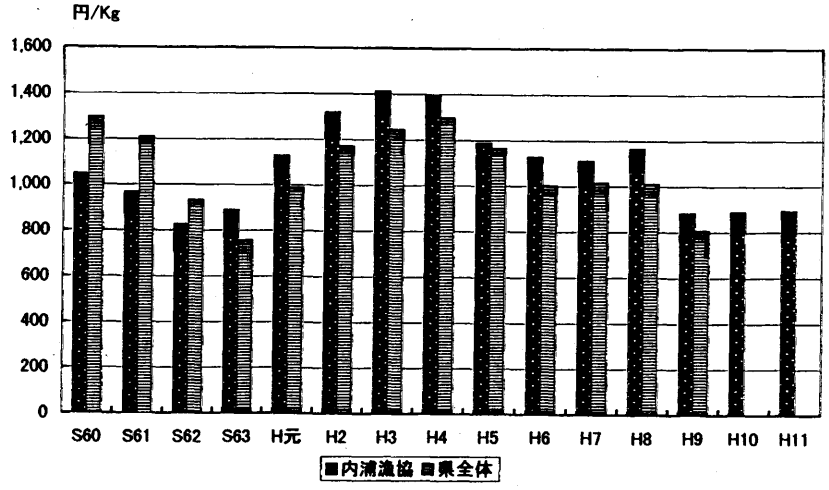


図8 サザエの平均単価の変化